

「追想紀言」 学習の記録 令和2年11月

⑤ 追想、兒幼、記性稍過人、先妣喜之、先考每出行、歸則妣逐一告家事、畢則向兒問曰、猶有遺否、兒乃言之、先妣益喜、

読み

追想、兒幼くして、記性きせい稍人より過ぐる。先妣之を喜ぶ。父出行毎に歸らば則ち妣は、逐一家事を告げる。畢はらば兒に向かひて問ひて曰く、猶遺すこと有りや否や。兒乃ち之を言ふ、先妣益ますます喜ぶ。

訳

想い出。私は幼いとき、物覚えが他の人より少しよかった。亡き母は、これを楽しんだ。父が出て行く毎に、帰ってくると母は逐一家の事を報告した。終わると、私に向かつて問うた。なお、言い残していることが有るかどうかと。私が母の言

言葉

記性きせいキセイ 物事を記憶する能力

稍しやうヤヤ

畢はつアミ 終わる

⑥

追想、先考爲人、哲而長、少嬉笑、而重然諾、每燕集、衆皆醉舞酣歌、先考乃裕然色和而已、以故等輩多憚之、其在家、家衆肅然、

読み

追想、先考の人と爲りは、哲にして長ける。嬉笑は少なくして、然諾には重し。燕集毎に、衆は皆醉舞酣歌す、先考は乃ち裕然として色和すのみ。故を以て等輩の多くは之を憚る。其れ家に在りても、家衆肅然とす。

訳

想い出。亡き父の人となりは、賢く徳の在る人だった。笑うことは少なかったが、引き受けたことには責任を持ってやった。宴会のようなことがあると、人は皆酔って踊ったり歌を歌った。父は、裕然として穏やかにしているだけであった。このようなことから、同輩の多くは、酔ったり歌を歌ったりすることを遠慮した。このことは、家にあっても同様に、家の者たちもみな身を慎んだ。

言葉

爲なス

爲人Ⅱヒトトナリ ひととなりひとがら。人の性質。

暫Ⅱセツ あきらか あかるい かしい

長Ⅱタケル すぐれた者、徳のある人物

然諾Ⅱゼンダク 承知して引き受ける

燕集Ⅱ

c f 燕会 エンカイ

②〔動詞・形容詞〕やすーんずる（やすンズ）。やすーい（やすシ）。ゆつたりと落ち着く。また、うちとけたさま。▽「安」に当てた用法。「燕居エンキョ」「燕息エンソク（Ⅱ安息）」「燕見エンケン（相手が休養のときを見はからって面会する）」「有它不燕Ⅱ它タ有あれば燕からず」「易経・中孚」

③〔動詞・名詞〕くつろぎ落ち着いて酒食を楽しむ。また、そのこと。▽「宴」に当てた用法。「同義語」謙。「燕楽（Ⅱ宴楽）」

酣Ⅱカン たけなわ

酣歌Ⅱカンカ 心ゆくまで酒を飲んで、快い気分で歌う。「

色Ⅱ顔つき

而已Ⅱのみ

等輩Ⅱ同輩 同じ仲間

衆Ⅱシュウ 多い 多くの人

肅然Ⅱしゆくぜんー おそれなどのために、身のひきしまるさま。おごそかでつつしむさま。静かで行儀ただししさま。

⑦

追想、先妣容貌端嚴、助Ⅱ先考「治」家、有Ⅱ才幹、尤巧Ⅱ織紵婚姻通家婦女、至Ⅱ今尚稱Ⅱ之、

読み

追想、先妣は容貌端嚴、先考を助け家を治む。才幹有り尤も織紵を巧みとす。婚姻通家の婦女今に至るも尚之を稱へる。

訳

追想、母は顔形はよく整い、おごそかであった。父を助け家を治めていた。物事をうまく処理していく才能があり、とりわけ機織りは巧みであった。親戚の女の人たちは、今になってもこのことを称えている。

言葉

容貌Ⅱ顔、形

端嚴Ⅱタンゲン 姿・形が整っていて、おごそかなこと。

才幹Ⅱ物事をうまく処理していく才能のあること。

尤Ⅱモットモ きわだっている とりわけ

織紵シヨクジン 機で布を織る。また、その人。紵Ⅱジン、ニン

通家Ⅱツウカ ①昔から代々親しく交際している家。

婚姻Ⅱ
コンイン
結婚。
親戚となること